

日本音楽知覚認知学会 平成 26 年度 第 1 回理事会 議事録

日時：平成 26 年 5 月 24 日（土）11：00～12：40

開催場所：愛知県立大学（長久手キャンパス） H 棟 308 室

出席者（敬称略・順不同）：星野悦子、小川容子、山崎晃男、中島祥好、荒川恵子、大串健吾、大浦容子、苧阪満里子、谷口高士、津崎実、三雲真理子、三浦雅展、森下修次、高橋範行、川上央、亀川徹、羽藤律、福井一、吉野巖

報 告

1. 会員状況報告 会員総数は 277 名（平成 26 年 3 月 31 日現在）で、昨年同時期に比べ 12 名増えた（入会者 21 名、退会者 9 名）ことが、高橋範行常任理事（学会事務局担当）から報告された。なお、会員内訳は、名誉会員 2 名、正会員 251 名、学生会員 24 名である。

2. 平成 25 年度事業報告

(1) 研究発表会開催について、昨年春季研究発表会は岡山大学（世話役；小川容子先生）で 5 月 25 日、26 日に、秋季研究発表会は東京情報大学（世話役；西村明先生）で 11 月 9 日、10 日にそれぞれ開催されたことが、星野悦子会長から報告された。

(2) 学会賞授与について、荒川恵子常任理事（学会賞担当）から、春季研究発表会での研究選奨授賞者は 1 名で、安田恭子さん（愛知淑徳大学人間情報学部。題目：「表情顔の検出における背景音楽の効果と N170 の年齢差」）であった。また、秋季研究発表会での研究選奨授賞者は以下の 2 名であることが報告された：池上真平さん（青山学院大学教育人間科学部。題目：「グループ感と音楽の印象の関係」）。米田 涼さん（金沢工業大学情報フロンティア学部。題目：「楽曲メタデータを用いた音楽の感性検索システムの構築」）。

苧阪満里子理事（論文賞選考委員長）から、学会誌『音楽知覚認知研究』第 15 巻～18 巻までの原著論文中より選ばれた「論文賞」選考結果が報告された。第 15 巻～16 巻は該当なし。第 17 巻～18 巻よりの授賞論文は、以下の通りである：

饗庭絵里子・田中里弥・藤澤隆史・赤塚諭・下斗米貴之・長田典子「和音進行による情動の知覚：fMRI および印象評価によるアプローチ」

(3) 学会誌『音楽知覚認知研究』の発行について、第 18 巻 1・2 号合併号(2012)、第 19 巻 1 号(2013)、第 19 巻 2 号(2013)の 3 巻が発行されたこと、また第 19 巻からは発行年が現実年に追いついたことが津崎実常任理事（学会誌編集委員長）から報告された。

(4) 学会賞規定・細則の追加事項について、小川容子副会長（会則担当）から以下の報告があった。「学会賞細則」の 2. 論文賞の決定方法の項目に（カ）として、次の文言を追記する。これは平成 21 年理事会で承認されたが、手違いで書き落とされていた。「(カ) 論文を推薦する際、論文を推薦できる委員（理事・理事会顧問・監事）が、自身の関連する自著論文、共著論文を推薦することは望ましくない。ただし、指導論文の場合は、この限りではない。」

加えて、理事会メール審議において了承（平成 26 年 5 月 13 日）された学会賞規定 4. 授賞対象者とその資格、についての改定（平成 26 年 5 月 24 日総会の承認を経て施行）は以下のとおりであると報告された。「（1）3 賞とも授賞対象者は本学会の会員とする。ただし、論文賞、特別賞の

対象者には名誉会員及び非会員を含むことを妨げない。」(下線部は改定部分)、ならびに手違いで書き落とされた「(4) 研究選奨の対象者は、本会の研究発表会において原則として2回以上の口頭発表者であることとする。」を追記する。

2. 平成 25 年度日本音楽知覚認知学会決算報告

高橋範行常任理事(学会事務局担当)から、一般会計ならびに学会誌出版積立金と国際活動支援基金の決算報告がなされ、了承された。

4. 平成 25 年度監査報告

大浦容子監事から、昨年度の会計執行が適正であったとの監査報告がなされた。

5. 学会ホームページ外部サーバー移行作業の進捗状況について

三浦雅展常任理事(学会アーカイブ担当・学会 WEB 担当)より、「さくらインターネット」と契約し、コンテンツの移行作業をおこなってきたが、5月10日には、アーカイブの一部を除いて、すべてのコンテンツを現サイトへ移行したこと。ただし、長崎県立大学が移行先を変更する申し出をおこなって契約解除をしたあとで新サイトに完全移行するまで、一定の時間を要すること(藤沢望理事からの情報による)が報告された。今後、時間のかかり具合を見て、他の移行方法を模索してゆくこととなった。

6. 平成 26 年度春季研究発表会研究選奨選考委員の委嘱

荒川恵子常任理事(学会賞担当)から、平成 26 年春季研究発表会の研究選奨選考委員が 4 名委嘱された旨の報告がなされた。

7. 学会誌バックナンバー電子化の進捗状況

星野悦子会長から、学会誌の第 1 巻から第 8 巻までの原著論文 17 本が現時点で電子化の対象となっており、このあと各論文の筆頭著者に対して、電子化と学会サイトへの掲載についての承諾書を送る予定になっている旨、報告された。

8. 日本学術会議協力学術研究団体の称号申請のその後

星野悦子会長より、昨年 11 月に申請書類と会員名簿を学術会議へ提出した後、今年 2 月 12 日に本部へヒアリングに出向き、そこで再再度の名簿の提出を求められた(研究職についての規程改定のため)こと、3 月 13 日に修正名簿を提出し、今後の審査を待つことが報告された。

9. その他

ESCOM の機関紙である *Musicae Scientiae* アブストラクト翻訳について、三浦雅展常任理事から作業の流れやこれまでの翻訳担当者の名前などが報告された。現在までに 17 巻 2 号～4 号、18 巻 1 号の計 4 冊分が翻訳され、26 名の会員が翻訳協力した。MS 誌のサイトに翻訳者の名前が掲載されたが、MS 誌のサイトに翻訳者の名前が掲載されたが、日本人だけ学位称号等が記されていない点について、今後は日本の執筆者についても掲載する方向で三浦理事を中心に検討することになった。

議 題

1. 平成 26 年度事業計画

(1) 研究発表会について、谷口高士常任理事(研究発表会担当)から、春季研究発表会(今回)は愛知県立大学(世話役;高橋範行先生)で、次回の秋季研究発表会は金沢工業大学(世話役;江村伯夫先生)で 11 月 29 日～30 日に音楽音響研究会と合同で行われることが報告提案され了承された。

(2) 学会誌『音楽知覚認知研究』の今後の発行予定について

津崎実常任理事（学会誌編集担当）から、今年度は第 20 巻 1 号、2 号を刊行予定であり、1 号は現在初校ゲラ待ち状態であり、7 月初めには会員へ届けられる見通しとの報告がされた。2 号で掲載する材料ははけてしまうので、新たな投稿を呼び掛けたいとの発言も含めて了承された。

2. 平成 26 年度予算案

高橋範行常任理事（学会事務局担当）より、平成 26 年度の予算案が提案され、了承された。

3. 会費未納者の扱いについて

高橋範行常任理事（学会事務局担当）から、会費未納 4 年以上であり今年 3 月末日で除名された人が 7 名、会費未納 3 年以上の人が 20 名いることが報告された。再度請求後、会費納入がない場合は平成 27 年 3 月末日をもって除名となるので、知り合いがいれば周知を促すことになった。

3. 学会業務に関連した旅費の出所について

高橋範行常任理事（学会事務局担当）から、会務に関連した出張が必要となるケースに備えて、予算費目を計上しておいてはどうかとの提案がなされた。現在は学会誌刊行費からの支出となっている学会誌編集取材旅費や、今後行われる選挙管理委員の旅費も、こうした「旅費」からの支出として一元管理すべきと提案された。これについては次回理事会までの検討課題とすることになった。

4. 学会ホームページ・メンテナンスのアルバイト雇用について

三浦雅展常任理事より、学会サイトのメンテナンスを行うアルバイト学生（大学院生）1 名について、常駐をさせることと、毎月 8,000 円程度のアルバイト代を学会から支出してほしい旨の提案があった。守秘義務についても承知している院生であるので、ウェブの更新にも迅速に対応できる体制を整えるためには必要な手当てとの意見が多く、了承された。

6. APSCOM の国際学会の日本開催について

中島祥好常任理事（国際渉外担当）から、今年 8 月の ICMPC&APSCOM 合同国際会議の次の 2017 年には、順番的に日本が APSCOM の開催国となるであろうことが報告され、了承された。どういう形で実施するか、本学会研究発表会とタイアップして実施するのかなどについては、今後具体的に検討してゆくことになった。

7. ISPS (International Symposium on Performance Science, 国際演奏会議) 2015 との協賛について

三浦雅展常任理事、津崎実常任理事の両理事（報告提案は三浦理事）から、2015 年に京都の龍谷大学で開催される国際演奏会議との協賛が提案され、了承された。協賛により本学会が広報されることや、会員にはキーノート・レクチュアへの無料参加などの諸メリットが検討されている。

8. その他

・ 次回の論文賞選考（対象論文は 19 巻 vol.1 および vol.2 ; 20 巻 vol.1, および vol.2 の 2 巻の原著論文）が予定されていることが、星野悦子会長から報告提案された。

・ 津崎実常任理事（学会誌編集委員長）から、他大学から『音楽知覚認知研究』掲載論文を大学リポジトリに搭載要請があった旨、報告された。今回を含め、こうした要請は今後もあると予想されるが、学会としてはこれを認めてゆくことで了承された。

以上